

科学技術社会研究所 第 41 回研究会講演記録

日時：平成 26 年 6 月 11 日(水) 13:30 - 17:00

場所：下目黒住区センター（第 3 会議室）

1. 「世界の動く仕組み - 3」：伊藤(泰) (13:40～15:00)

現代の資本主義社会の仕組みに関する 3 回目の論考発表があった。日本や米国など民主主義国といわれる国でも一部の富裕層を中心とする“ダボス階級”が政治・経済・文化を支配していて、庶民は“羊の群れ”として飼われているようなものである。飴と鞭とプロパガンダによる支配であり、行動経済学や巧みなキャッチコピーによる仕掛けが用いられている。このような状況に抗するには、個々人が批判的に考え、少しでも流を変えるよう努力する必要があるという話であった。

これに関し、宣伝広告や投資活動の自由と功罪、民主主義体制での格差問題と多様性維持、ビッグデータ利用と情報監視の問題、抵抗姿勢の提言の意義と訴求力などについて議論があった。

2. 「原子力規制委員会と JANSI との意見交換会および原子力安全について」：西郷 (15:10～16:30)

原子力安全の問題に関する見解および規制委と JANSI の意見交換会の概略内容と感想が述べられた。国民と事業者がともに受け入れる安全目標と規制基準の設定が必要である。規制委が主導するべきと考えられるが、政治・経済的観点からの検討も重要である。また、意見交換会の様子などから、規制委が原子力安全に対する責任を回避しているように感じるとのことであった。

これに関し、事業者側の安全対策に対する国民の不信、受動安全炉のような抜本策あるいは過酷事故実験による証明の必要性、国民の受け入れの判定の仕方、官僚による規制と原子力安全の矛盾、現状および将来的な人材不足と教育問題などについて議論があった。

以上